

企業環境と判断

黒田インターナショナル

黒田 毅

企業は真剣さにおいて自己を必要とする。労働意欲と企業倫理性はこれに準じる。これらは企業が自己の理念を抱き、ビジョンを有することにおいて時代参加を与えられる。

これらは優良企業が労働を美德とすることにおいて、その生産性と利益を有することなのである。

企業が国家という基盤を有し、自由貿易ルールにおける市場参加を有する。これらは平和という現実において理解が希薄であるが、戦争という現実においては絶対的な真実となるのである。

企業は独立体として、その明確な自己経営方針を求められる。それらは企業が健全な自己経営において、時代と世界への参加を要求されるのである。

これらは正しい時代と世界への認識は正しい企業構築を与える。

製品とサービスは価格対効果において、その需要を有する。これらは世界市場におけるグローバル化において統一基準が存在するのである。

先端性は、その効率性と利便性の向上であり、技術とシステムはそれらを創造できるのである。

これは企業が虚飾でなく、誠実さにおいて自己を有することがその健全性を与えるのである。

これら企業基盤は可能性という現実を与えるのである。これらは学術性の進歩における可能性を現実化する。